

# とらべつ

## 歴史余話

### 第20回 里に息づく原野の面影

北海道医療大学 薬用植物園担当

大沼 弘樹

開拓前の当別町平野部には石狩川や当別川が蛇行し、たびたび氾濫を繰り返していました。長年当別に住んでいる方は、札幌まで見渡せる当別の平野部がかつてひと続きの原野だったこと、開発が進んでいく中でも水害に悩まされていたことをよくご存知でしょう。そのような原野も今はすっかり豊かな田畑や宅地となり、当時の面影はほとんど見られなくなりました。河川改修の努力によって、洪水に見舞われる恐れも随分と減りました。

一方で、開拓者から「不毛の地」と評された氾濫を繰り返す原野も、生き物たちにとっては貴重な生息地でした。川が氾濫するとよく水没する土地を「氾濫原」と呼びますが、このような環境は大きな樹木に覆われにくいことから、湿った草原を好む植物にとって貴重な住処になります。また、直接氾濫を受けない場所でも、周りを山などに囲まれて水はげが悪いと湿地となります。そこで枯れた植物が何百年、何千年と積み重なると、泥炭層になります。泥炭と聞くと、良いイメージを持たない方が多いかもしれませんが、じつは湿原の野の花で有名な雨竜沼湿原や霧多布湿原、本州の尾瀬ヶ原も、当別原野と同じような成り立ちを持つ、代表

的な泥炭地です。開拓前の当別周辺にも、自然保護区に匹敵する湿地のお花畑が、あちこちに広がっていたことでしょう。

排水整備によって泥炭が乾燥すると、次第に湿地の植物は消えてゆきます。現在の当別郊外に残る、笹と灌木に覆われた原野は、かつての氾濫原や湿地の原生花園が、乾燥化によって衰退した姿と考えられます。それでも路傍の側溝や、泥炭に掘られた穴には水面が残っているので、原野の面影を残す植物たちが今も辛うじて生き延びています。また、少し乾燥に耐える植物は、防風林などにも点々と残り、原野の生き残りとは気づかれていなくても、今日もそっと生き続けています。

夏の路傍や防風林の縁を彩る青紫色のコバギボウシや、白い尻尾のような花穂を揺らすナガボノシロワレモコウ、赤紫色の花穂が盆花としても使われたエゾミソハギ、アジサイの仲間の白いノリウツギなどは、今でもよく見かける原野の生き残りです。このような植物は、近接する新篠津村、月形町、札幌市東区、江別市の平野部にもよく見られ、かつて一帯に同じような植生が広がっていたことを物語っています。



コバギボウシ



ナガボノシロワレモコウ



エゾミソハギ



ノリウツギ

## 全国造園デザインコンクール 「みどりの広場」プラン賞受賞

## 当別高校園芸デザイン科 田中 友太 さん



受賞作品  
エエンニワのカムイチェブ  
恵庭市で開催された「ガーデンフェスタ」で展示されました

←川を遡上するサケを石で表現しています



受賞作品のプラン詳細や写真などは当別町ホームページ「現在を生きる+」でご覧ください。



全国造園デザインコンクールで「みどりの広場」プラン賞を受賞した、当別高校園芸デザイン科3年の田中友太さんにお話をお聞きました。

### 園芸デザインの道へ

兄が当別高校の園芸デザイン科に通っていて、畑や食物を栽培するのが楽しいと聞いて、園芸デザイン科に進むことにしました。

入学した当初はクラスに馴染めませんでした。外の授業が多く、協力して実習をしているうちに友達とも仲良くなり、クラスの団結力がついたと思います。農業に関する実習を重ねて少しずつ技術が身についてくると、やりがいを感じられるようになりました。

2年生になってから造園専攻のグリーンデザインコースと、花き栽培やフラワーデザイン専攻のフラワーデザインコースに分かれ、自分は兄が造園業の道に進んだこともあり、造園に興味があったの

でグリーンデザインコースに進みました。庭を作ったりする勉強はとても楽しい反面、学ぶにつれて技術的な難しさも分かるようになりました。また、昨年、ホテルライフォートでオリンピック向けの花壇を制作した時に、ホテルの方から宿泊客からとても評判がいいと褒められ、園芸の仕事は見た人に喜んでもらえる仕事だと、感じることができました。

### コンクールに出展して

グリーンデザインコースに進んだ後、すぐに3級造園技能士の検定に合格することができ、この勢いで新しいことに挑戦してみたいと思い、コースの同級生5人がそれぞれのデザインを「全国造園デザインコンクール」の「緑化フェア『みどりの広場』プラン部門」に応募することに。当別高校としては初めての出展ということもあり、グリーン担当の先生のサポートを受けて、デザインを作成しま

した。今回の緑化フェアは恵庭市で開催されるので、恵庭岳や三段の滝など、恵庭市にちなんだものをデザインに入れ、テーマもアイヌ語で「エエンニワのカムイチェブ」と名付けています。

特別賞を受賞して、自分のデザインを緑化フェアで実際にプロの造園会社の方に作ってもらう事ができ、技術的にも今の自分にはできない仕上がりが勉強になったほか、デザインで指定した材料が費用面からも手に入りにくい材料だったものを違和感のない材料に置き換えてくれるなど、プロの技術はすごいと思いました。

### 将来の夢は

高校を卒業したら造園業の道に進みたいと思います。2年生のインターンシップで受け入れてくれた造園会社の社長さんが、造園について色々なお話をしてくださり、人柄も良かったので、その会社に入るのが今の目標です。